令和８年度　授業改善推進プラン

＜教科名　**社会**　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	小学校で学習する基本的な知識を習得している生徒が多い。その知識を生かして今後学習できるかが課題である。	下位・中間層で、教科書を読み文脈から適語を抜き出す、ということができない。また学習習慣がないため記憶の定着も弱い。上位層も、概念の一般化や転移は難しい。	下位・中間層で、教科書を読み文脈から適語を抜き出す、ということができない。また学習習慣がないため記憶の定着も弱い。都平均より１０ポイント弱程度低い結果となった。
学習状況	歴史では、授業で学習した内容をしっかり復習し、知識を増やし、考える力を養っていく必要がある。 地理では、学習習慣が身に付いている生徒といない生徒の差が目立ち始めているので学習習慣を促していきたい。	各クラスとも学習に向かおうとする姿勢がある。一方で、家庭学習の習慣はない生徒が多く、宿題も含めた単元計画などは設定できない。	授業内での取り組みは懸命に行うが、家庭学習の習慣化に関しては定着できておらず、課題を感じている生徒が多い。
生徒アンケートの結果より	歴史では、意見交換するような授業展開にあまりならなかったことから、新たな発見や気付きに繋がりにくかった。 地理では、班学習を活用して、教えあいと議論の中で、学習習慣の輪を広げて行きたい。	意見交換による深まりが 9 割を超えたことから協働的な学びにつながったと考えられる。一方で、授業後も探究し続けようと思う生徒の割合が低いため、主体的な学びを引き出す課題と指導を工夫する必要がある。	意見交換による深まりが 9 割を超えたことから協働的な学びにつながったと考えられる。授業のねらいを明示することで学習のゴールを共有することが必要であると考えられる。

【授業改善の手立て】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	歴史では、話し合い活動等を充実させ、新たな発見や気付きに繋げていく。 地理では、小学校で学んだ SDGS や時事に対応させて、学習意欲をさらに高めさせる。	主体的な学びを引き出すために、生徒に家庭での学習の方法を指導したり、方法を共に考えたりする機会を設ける。そのうえで、生徒に計画や選択肢を委ねる機会を増やす。	主体的な学びを引き出すために、生徒に家庭での学習の方法を指導したり、方法を共に考えたりする機会を設ける。
評価方法	話し合い活動等の振り返りの内容を重視し、主体的な学習に結びつくような授業を行っていく。	同様のアンケートを実施し、定期的に評価・改善を行う。	同様のアンケートを実施し、定期的に評価・改善を行う。